

超幸運の Double Rainbow 出現！ ～二重虹（ふたえにじ）～

2つの三連休（4/29～5/1と5/3～5/5）の合間の5月2日の夕方、午後から降り始めた雨が上がり、北西の空で夕日が輝き出した頃、南東の空には、校舎をまたぐように、大きな虹が架かっていました。部活動を終えた生徒たちが、パラパラと雨が降る中、空の虹を見上げながら家路を急いでいました。

その昔、自然現象の中には、月食や日食のように不吉なものとして、恐れられていたものも多くありますが、虹はその美しさもあり、幸福なものと考えられることが多いですね。校舎に虹が架かったのは、きっと良いことが、起きる前ぶれですね。



◎二重虹（ふたえにじ）

目を凝らして見上げてみると、明るい虹の外側に、薄っすらではありますが、もう一回り大きい虹がある二重虹（ふたえにじ）でした。これは幸運を呼ぶ虹の中でもさらに、超 Lucky を引き寄せる虹と言われているようです。

色の並びが逆？

2つに虹をよく観察してみると、内側の明るい虹（主虹：しゅこう）と、外側の薄い虹（副虹：ふくこう）は色の並び方が、逆になっているようです。

主虹は、半円形の内側が紫で外側が赤ですが、副虹は内側が赤で外側が紫ですね。これは虹のできる原理に理由があるそうです。

空気中の水滴に、ちょうどよい角度で太陽の光が当たったときに、屈折と反射により虹ができますが、2回の反射のできるのが副虹で、鏡の反射と同じで、この時に反対側になるからだそうです。



●光の屈折と反射については、1年生理科で学びます。

●虹のできる原理をしりたくなったら、下のNHKのサイトをみてください。

【関連動画】NHKベーシックサイエンス 第35回 虹を作ろう！～光の性質・屈折～（10分）

<https://www.nhk.or.jp/kokokoza/tv/basicsscience/archive/chapter035.html>

※虹のできる原理は、けっこう難しく、高校の物理の授業で学びます。



？ところで虹は、なん色からできているの？

昔、虹は3色や5色（赤・黄・緑・青・紫）と言われていたそうです。確かに色の境は明確ではありませんし、美術の授業でもなったように混ざり具合で、どんな色にもなるので、どこからが緑か？などと判断するのは難しいですよね。光は七色と提言したのは、万有引力の発見者として有名な物理学者のニュートンです。彼は精工な天体望遠鏡（ニュートン式反射望遠鏡を発明）を作るために光の研究もしました。プリズム（三角形のガラス）に光を通すと虹（色に分かれた光の帯）ができ、その色の幅を観察すると、音の音階と同じように考えてみる（ミとファ、シとドの間は半音）と、上手く分けられると考えると、7分割で説明しました。それ以降、光は7色（赤・橙（半幅）・黄・緑・青・藍（半幅）・紫）となったそうです。

